

令和3年度 ミニ・キエーロモニター事業の実施結果

1 事業概要

土の中の微生物の力で生ごみを分解・消失する生ごみ分解処理容器「ミニ・キエーロ」を使用し、その有効性・課題を検証するとともに、家庭から排出される生ごみ減量の取り組みを普及推進するものです。市内の75世帯で実際にミニ・キエーロを使用していただき、使用実績についてアンケート調査を実施しました。

調査期間：令和3年8月1日～31日 回答数：71

2 実施結果

(1) 処理状況

ミニ・キエーロでの生ごみ処理について、「うまくいっている」が55件、「うまくいっていない」が15件であり、約8割がうまくいっているとの回答でした。

うまくいっていない理由については、「手間がかかる」が最も多く8件、「分解しない」が6件、「虫がわく」が1件でした。

処理状況

・うまくいっている	55
・うまくいっていない	15

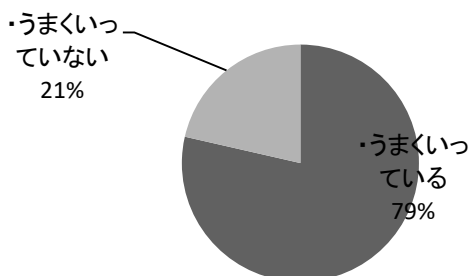
※未回答 1

うまくいっていない理由

・分解しない	6
・手間がかかる	8
・臭いが出る	0
・虫がわく	1
・その他	0

※複数回答あり

処理状況



(2) 投入量・頻度

全モニター世帯の生ごみ投入量は、8月の1か月で合計約170kgであり、1回あたりの平均投入量は約220gでした。

投入頻度は「2～3日に1回」が最も多く30件、次いで「ほぼ毎日」が15件であり、平均投入頻度は2.9日に1回（月に換算すると11回程度）でした。

上記から、ミニ・キエーロを活用することで、1世帯あたりひと月約2.5kgの生ごみ削減が見込まれます。

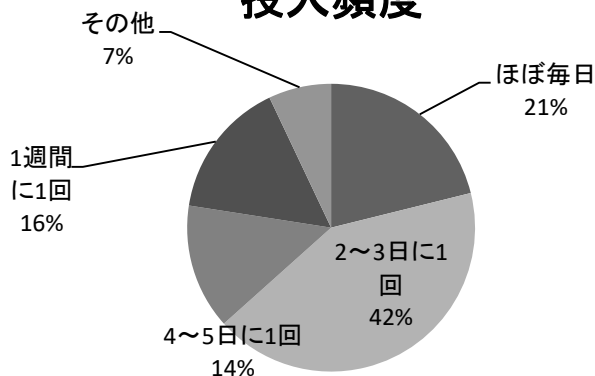
投入量実績(8月)

投入量合計(g)	168,754
平均投入量(g/回)	224

投入頻度

ほぼ毎日	15
2～3日に1回	30
4～5日に1回	10
1週間に1回	11
その他	5

投入頻度



(3) 投入される主な生ごみ

ご飯、米ぬか、麺類、肉の脂身、お茶(麦茶)がら、コーヒーかす、調理油、出汁がら、野菜くず(皮、芯、へた)、果物の皮、魚のあら(頭、骨、皮)、卵の殻 など

※下線を引いたものは分解されにくい又は分解されない

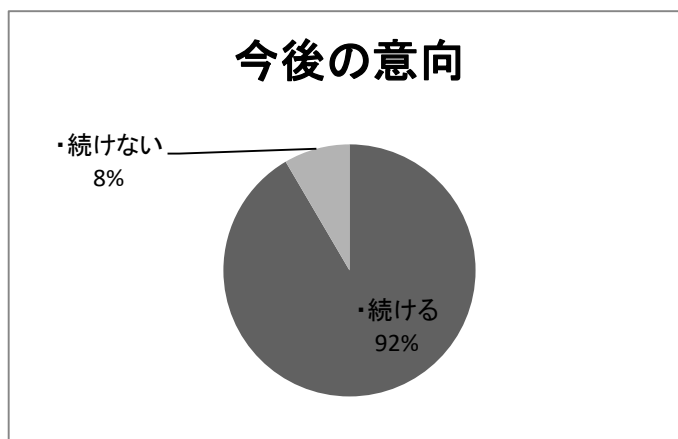
(4) 今後の意向

ミニ・キエーロでの生ごみ処理について、「続ける意向である」が65件、「続けない」が6件であり、9割以上が今後も利用を続けるとの回答でした。

(1) でうまくいかなかったと回答した世帯でも、「続ける意向である」との回答が多く、「このまま続けて、来年の自由研究テーマにしてみたい」という回答もありました。

今後の意向

・続ける	65
・続けない	6



【肯定的な意見(うまくいった点)】

- ・暑い日のほうが早く消えていた。
- ・投入するものを細かくしているとうまくいく。
- ・乾きすぎていたら水をかけると処理をしてくれた。
- ・よく土と混ぜたらにおいもなくなる。
- ・家の中のごみ箱に生ごみを捨てていたためコバエが発生することが多かったが、今回は外のキエーロに入れたためかコバエの数が激減した。
- ・ごみ問題に目を向けるきっかけになった。
- ・まったくにおわなかった。
- ・台所が清潔に保ててとても気持ちがいい。
- ・気分もいいしごみも軽くなる。油や煮汁、水分があったほうが分解が順調。6等分は難しく、4等分とした。
- ・子供に取り組ませ、何が生ごみになるか、生ごみを増やさないよう、食べ残しをできるだけしないようになった。
- ・ごみを減らす意識が家族に浸透した。
- ・ごみ袋のサイズが一つ小さくできた。

【否定的な意見(問題点)】

- ・腐葉土を使用した。(生ごみと土がより多く接する黒土のような土がよい。)
- ・多すぎるとうまくいかない。
- ・水分が少なくなっていると処理が遅い。
- ・たまごの殻はなかなか消えない。
- ・果物の皮を細かくきざまないと分解が遅いようで、きざむのに手間がかかる。

3 実施結果から考えられる、ミニ・キエーロをトラブルなく使用するためのポイント

ミニ・キエーロモニター参加者の皆さまにおかれましては、以下のポイントを抑えてミニ・キエーロの使用を継続していただき、引き続き、生ごみ削減にご協力をお願いします。

- (1) 陽あたりが良いなど、**できるだけ温かい場所**にミニ・キエーロを置く。
- (2) ミニ・キエーロで**分解されやすいものを中心に投入**する。
分解されにくいものを投入する際は、分解されやすいものよりも小さく、細かくする。
- (3) 分解できる量は、各家庭の設置状況や天候等に大きく左右されるため、今回のモニターでの経験を活かし**投入量の調整**を行う。
- (4) 土に穴を掘って生ごみを入れ、**土とよく混ぜて**、掘った土をかぶせる。
生ごみと土ができるだけ多く接することが、早期分解のコツです。
そのために、投入前、もしくは、土と混ぜるときに、できる限り小さく、細かくして混ぜることがポイントです。
- (5) 分解が進まなければ、**水分、油分を調整し、さらに土とよく混ぜる。**